

タルタマ通信

垂水高等学校だより

第2号

平成27年5月29日発行



爽やかに制服を! (着こなしセミナー)

5月7日(木)に本校の制服をつくってくださっている「明石被服興業(富士ヨット)」から講師の方に来ていただき、着こなしセミナーを開催しました。

普段から着ている制服について、制服ができるまでの工程や作っている人の話を直接聞くことで、制服についての思いがあらたまったことでしょうか。たくさんの方の思いが詰まった制服です。爽やかに着こなしたいですね。



お母さん いつもありがとう。 (母の日感謝行事)

家庭クラブ(主に県内の家庭に関する学科がある学校の生徒による活動組織です)の恒例行事である、「母の日感謝行事」が5月8日(金)にありました。いつもお世話になっている保護者に感謝し、家庭科の先生の指導の下、有志でチーズケーキを作りました。

包み紙には、「ママ、いつもありがとうね。これからもよろしくね。」

私達教職員も美味しくいただきました。こちらこそ、「ありがとう」



まずは 教師から (第1回垂高クッキング)

5月14日(木)中間考査2日目に、職員研修で校長先生自ら釣ってきた錦江湾のマダイを職員で捌いて食べる会がありました。校長先生による「魚について本物を知ろう」という研修を受けた後、職員みんな、悪戦苦闘してマダイを捌いて食べました。ゆくゆくは全ての先生方が魚の捌き方を生徒にも教えられるように、まずは先生方が体験してもらおうという岸下校長の思いが詰まった研修会(垂高クッキング)でした。天然のマダイは美味しかったのは言うまでもありませんでした。



岸下校長の捌き方お手本

PTA総会で安全スマホ・ケータイ安全教室

5月8日(金)PTA総会が本校体育館で開催されました。総会に先立ち、生徒保護者に対して、NTTドコモから高田あけみ氏をお招きして、スマホ・ケータイの使い方について講話をしてもらいました。一度アップした情報は取り返しがつかないから①「先読みする力」と、フィルタリング設定することや不正使用をしないための②「モラルをもって正しく使う」こと、歩きスマホは絶対にしないことも含めた③「自分の身は自分で守る」など、実際に起こっているリアルタイムな事案などを紹介され、スマホ・ケータイについて使い方を深く考えさせられた講演会でした。スマホ・ケータイを安全に使いこなしたいですね。



縄文の森に遠足だ〜!

恒例になりました春の遠足。今年は霧島市にある「上野原縄文の森」に全校生徒で出かけました。天気も晴れて、絶好の遠足日和。復元集落や縄文時代のジオラマ、はたまた古代人に扮装したりして、ちょっとしたタイムスリップ楽しんでいました。恒例の生徒会主催のレクリエーションでは、ドッチボールを行い、それぞれのチームで交流を深めることができましたようです。豪華な賞品(お菓子など)も貰えて、生徒たちは楽しい思い出を青春の1ページにつづることができたようでした。



少数精鋭だ〜! (部活編)

前回に続いて、今回は「卓球部」。

今年度、大隅地区春季団体2位でした。卓球部員は、今年度は9人(女子8人、男子1人)ですが、一昨年度は、同好会から4人のスタートでした。理科の伊伏先生の指導の下、同好会ながらもいきなり地区新人大会団体2位の好成績で全校で「オー」と驚愕の声。かつて九州大会まで出場した歴史がある卓球部に、当時指導されていた外部の指導者も加わり、今後の活躍に期待が高まります。





先輩 お帰りなさい! (教育実習始まる)



ほとんどの高校では、この時期は卒業生が「教育実習生」として母校に帰ってきます。大学に進学して、将来は学校の先生になろうと夢見て、大学の「教職課程」を学んでいる卒業生が、今度は母校の教壇に立ちます。「教師になるんだ!」という思いが強まる瞬間でもあります。

今年度は、2人の卒業生が帰ってきてくれました。3週間ですが充実した実習を終えて、是非、夢を実現してほしいです。頑張れ、実習生!



写真の左

【平成24年3月 生活デザイン科卒
九州女子大学家政学部人間生活学科
4年 笑喜 羽留菜さん】(家庭総合)

○ 高校時代の思い出

私は、生活デザイン科で高校3年間過ごしました。食や被服の検定に挑戦し、毎日夜遅くまで先生方の御指導の下、クラスの友人と切磋琢磨しながら勉強をしていました。そして、合格した時のうれしさや達成感、今でも私が様々な物事に挑戦することの原点となっています。また、生徒会長や家庭クラブの副会長を務め、吹奏楽部にも入っていたので毎日忙しかったですが、とても充実した高校生活でした。

○ 母校のイメージ

先生と生徒の距離がとても近くて、相変わらずにとってもアットホームだと思います。先生方が生徒のことをよく見ており、一人一人と根気強くしっかり向き合ってくださいます。また、鹿児島市や鹿屋市の中学校から生徒がやってくるので、新しい友だちもでき、生徒同士も仲がいいと感じました。

○ 中学生へ

実は私は中学校へは途中から行けずに不登校でした。(笑)しかし、好きな科目であった家庭科を学びたいという思いから垂水高校へ入学し、無事に卒業することができ、現在は、大学で家庭科の教員になるための勉強をしています。今、私がこうして夢に向かって進んで行くことができるのは垂水高校で過ごした3年間があったからです。垂水高校は生徒が少ない分生徒一人一人が主役なので、様々な行事で活躍する場面があります。そこで経験が自分の自信につながり、何ものにも変えられない高校生活を過ごすことができると思います。そんな高校生活をぜひ垂水高校で過ごしてみませんか。

写真の右

【平成24年3月 普通科卒
都留文科大学文学部国文学科近代文学専攻
4年 瀬戸口 奈々さん】(国語総合)

○ 高校時代の思い出

やはり一番は学校行事です。生徒数が少ない分生徒と先生方が一体となって学校行事を盛り上げ一生懸命に取り組んだことです。特に、文化祭は様々な企画があります。書道部のパフォーマンスに感動したり、生活デザイン科の本格的なファッションショーに圧倒されたり、調理コースの食物バザーの料理がとても美味しかったことを覚えています。垂水高校は普通科と生活デザイン科という2つの学科があるので、ほかの高校では体験できない面白い文化祭だと思います。

○ 母校のイメージ

やはり一番に感じたのは、先生方の温かさです。そして生徒の皆さんが明るく元気な声で挨拶してくれ、とても気持ちがいいです。垂高の生徒は何事にも一生懸命で素直です。それが挨拶に表れていると思います。また、資格などの検定補助金制度、通学費補助、部活動活性化補助など様々な制度があり、新しいことに挑戦するきっかけづくりとなるいい制度だと思います。ぜひ、この制度を利用して様々な検定試験や部活動に積極的に取り組んでほしいです。

○ 中学生へ

垂水高校は生徒数は少ないですがその分生徒同士や先生方との距離が近いことが魅力だと思います。学習面もそうですが生活面での心配事や進路相談など生徒一人一人と向き合って指導していただきます。生徒の気持ちにより添い、何より私たちのために一生懸命になってくれる熱い先生方がいます。そんな先生方があなたたちを待っています。生徒数が少ない、だからこそ一人一人のよいところを引き出すことができる。生徒一人一人が主役という言葉がびったりの学校であなたも主役になってみませんか?ぜひ、垂水高校で充実した3年間を過ごしてほしいと思います。



全体朝礼で挨拶する
笑喜先生(左)と瀬戸口先生(右)